| 科目名 | 44．看護展開論 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 履修年次 | １年次 | 科目区分 | 専門分野 | 単位数<br>(時間) | １単位<br>（30時間） |
| ディプロマポリシー(DP) | □ 人を大切にするこころ<br>☑ 現象を適切に把握し地域で生活する人を支える看護実践力<br>□ チームの中で連携・協働するための力<br>□ 専門職業人として自己研鑽する力 | | | | |
| 科目目標 | 看護展開方法を理解することができる | | | | |
| 到達目標 | １）看護展開のプロセスを踏まえ、事例患者の看護展開をすることができる<br>２）看護記録の意義、目的、構成要素、取り扱い上の留意点を説明することができる<br>３）協同学習を通して自己の問題解決能力や思考能力を高めようとしている | | | | |
| 評価方法 | 学習到達度基準を用いたレポート評価（100点）による総合評価を行う | | | | |
| 使用<br>テキスト | 系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅰ　基礎看護学②　医学書院 | | | | |
| 参考文献 | | | | | |
| 教育方法と学生への期待<br>(求めること) | 看護過程の展開に関する基本的な知識・考え方を学び、論理的・批判的思考、判断力に基づいた看護実践のための基本を学んでほしい。<br>講義は学習者の能動的な学習への参加を基盤に仲間とともに学びあう協同学習を取り入れて進めます。それぞれが責任をもって事前・事後課題に取り組み、グループの中でそれぞれの役割を果たしつつ、看護の思考過程に沿って事例患者の看護について多方面から検討し、思考を深めていってください。看護過程は、対象者の個別性に合った看護援助を実施するために必要なツールですが、簡単に身につくものではありません。これまで学んできた知識だけでなく、新たな学習も同時に行いながら、主体的に取り組んでください。 | | | | |

| 回 | 学習項目 | 学習内容 | 授業方法 |
|---|---|---|---|
| 1 | 看護過程とは | 看護とは何か<br>看護過程の５つの構成要素と関係性<br>看護過程を用いることの意義 | 講義<br>演習 |
| 2 | 看護過程の展開の基盤となる考え方 | 問題解決過程<br>クリティカルシンキング | 講義<br>演習 |
| 3 | 看護過程の各段階① | 第1段階：アセスメント<br>情報収集<br>アセスメントとは（解釈・判断・推理・推論）<br>情報収集の目的・手段・種類<br>情報収集時の注意点 | 講義<br>演習 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 4 | 看護過程の各段階② | 第2段階：アセスメント<br>情報収集の実際 | 講義<br>演習 |
| 5 | 看護過程の各段階③ | 第2段階：アセスメント<br>情報収集の実際 | 講義<br>演習 |
| 6 | 看護過程の各段階④ | 第2段階：アセスメント<br>情報の分析 | 講義<br>演習 |
| 7 | 看護過程の各段階⑤ | 第2段階：アセスメント<br>情報の分析 | 講義<br>演習 |
| 8 | 看護過程の各段階⑥ | 第2段階：アセスメント<br>全体像の把握（関連図）<br>アセスメントとは、関連図作成 | 講義<br>演習 |
| 9 | 看護過程の各段階⑦ | 第3段階　看護問題の明確化<br>第4段階　期待される成果<br>第5段階　看護計画の立案 | 講義<br>演習 |
| 10 | 看護過程の各段階⑧ | 第５段階：看護計画の立案 | 講義<br>演習 |
| 11 | 看護過程の各段階⑨ | 看護記録の構成<br>SOAPの書き方<br>SOAP書いてみよう、演習説明 | 講義<br>演習 |
| 12 | 看護過程の各段階⑩ | 第6段階　実施 | 演習<br>(実習室) |
| 13 | 看護過程の各段階⑪ | 第7段階　評価 | 講義<br>演習 |
| 14 | 看護記録① | 第6段階　実施<br>第7段階　評価 | 演習<br>(実習室) |
| 15 | 看護記録② | 看護記録とは<br>看護記録の法的位置づけと規定<br>看護記録の目的<br>記載・管理における留意点 | 講義<br>演習 |